

日本基督教団 関東教区 埼玉地区第24回(2018年度)

“アーモンドの会”開催レポート

日本基督教団 関東教区 埼玉地区の教会が中心となって開催している“障がいを負う人々と共に生きる教会を目指す懇談会”である「アーモンドの会」。こちらの2018年度、24回目の会が9月に開催されました。ここでは、その内容をご紹介します。



- ❖ 主題：「心のドアをたたく」ー引きこもりと向き合うー
- ❖ 発題者：引地 達也さん（一般財団法人福祉教育支援協会）
- ❖ 発題者：中川 基子さん（社会福祉法人一粒しゃろーむ管理者）
- ❖ 証者：滝川 英子姉（アーモンドの会委員 七里教会）
- ❖ 午後プログラム：グループ分かち合いの時

❖開催概要❖

<日時>2018年9月24日(月・秋分の日)
午前10時～午後3時半
<場所>日本キリスト教団 埼玉和光教会

<午前プログラム>三名の発題者・証者が発表

はじめにお話をされたのは引地達也さん。冒頭で引地さんは、「引きこもりの方々のうち、30%は他者からのアプローチを待っている」と数値から見た考察を発表。また、支援をする姿勢としては「同じ目線」「一緒に悩むこと」が大切だと述べられました。発表の最後には、引地さんが楽曲の制作に関わった、音楽グループ「Psalm (サーム)」が歌う讃美歌が流れました。



二番目の発表者は中川基子さん。家に引きこもり、家庭内で暴力を振るっていたという六歳年上の兄に対する負の感情を強く持ったこともあったが「兄を変えるのではなく、自分を変えること」によりこの苦難に対する認識が変わり、「自分自身の現状を肯定的に捉えることができるようになった」ということでした。

最後は、今まで何人も引きこもりの方々と関わってきたという滝川英子姉。はじめはごちなかつた引きこもりの少年が次第に心を開き、滝川さんとの人間関係ができていく経過を語ってくれました。



三名の発表に共通していたテーマは、「引きこもりの方々にとって、教会とはどうあるべきか」ということ。私たちはこのアーモンドの会を通し、今後も全ての人々にとっての居場所となるべく、活動を続けていく必要があるとあらためて思い起こすことができました。

<午後プログラム>発表に対する意見交換

教会ごとの代表者挨拶も行われた昼食時間。ここでは、リラックスしたコミュニケーションが参加者同士でなされました。午後のプログラムでは、各グループに分かれ、午前プログラムの発表について「感じたこと」「自分自身の経験や思い出」「これからどうあるべきか」について、活発な意見が交わされました。

その後、参加者は講堂に集合。グループごとの話し合いの内容が代表者より発表され、ここではさらに多くの考え方や価値観に触れることができましたのではないかと思います。最後はアーモンドの会のホームページ制作を担当されている最上義さんから、ホームページについて説明が行われました。ご参加いただきました皆さま、ありがとうございました。



→アーモンドの会ホームページ URL : <http://almond-saitama.com/>